

第2回 武豊町総合計画審議会 議事録(要旨)

日時:令和7年7月 22 日(火) 10:00~12:00

場所:武豊町役場 全員協議会室

出席者 (敬称略)	(◎=会長、○=副会長)
委員	浅野 俊太郎 武豊町教育委員会教育長職務代理
	原田 時男 武豊町農業委員会副会長
	福田 昌寛 連合愛知知多地域協議会
	橋詰 弥久雄 武豊町商工会会長
	森田 広幸 あいち知多農業協同組合武豊地域担当理事代表
	穂刈 正洋 武豊町経営者懇談会代表
	中川 美知夫 武豊町社会福祉協議会会長
	小藤 省吾 武豊町文化協会
	栗本 孝成 武豊町老人クラブ連合会会長
	三厨 晴恵 武豊町スポーツ協会副会長
	井上 久枝 武豊町ボランティアセンター代表
	○明壁 恭子 まちづくり会議代表
	青木 宏和 長尾部部長
	出口 晋 大足区区長
	渡邊 好文 富貴地区区長会会長
	◎千頭 聡 日本福祉大学教授
	岩瀬 雅哉 愛知県総務局市町村課地域振興室 兼愛知県知多県民事務所県民防災安全課担当課長
	羽山 英幸 一般公募
	奥村 圭子 一般公募
	鳥本 靖之 一般公募
	市川 大輔 一般公募
	高木 正博 一般公募
	田中 晴雄 一般公募
欠席者	中込 理人 武豊町子ども会育成連絡協議会会長
事務局	町長、教育長、総務部長、企画部長、健康福祉部長、生活経済部長、 建設部長、教育部長、企画政策課長、企画政策課長補佐、 企画政策課(西村、鳥居佑)、地域問題研究所(押谷)
傍聴者	2名

- ・ 会議に先立ち、事務局(企画政策課長)より、次の2点について報告があり承諾を得た。
 - ： 本会議は傍聴可能な会議であり、本日は傍聴者があること。
 - ： 音声・写真での記録を取りホームページ・広報等で活用すること。

開会

1 会長あいさつ

2 町長あいさつ

3 委員変更

……資料4

- ・ 武豊経営者懇談会 岩部雅人委員から穂刈正洋委員に変更

4 諮問

- ・ 武豊町総合計画審議会条例第5条に基づき、町長から武豊町総合計画審議会に諮問。

5 議事(審議)

(1)第6次武豊町総合計画 前期 基本計画 成果指標について

……資料1

(資料説明)

- ・ 事務局より、第1回審議会以降の経緯、前期基本計画成果指標達成状況(資料1)について説明。

(質疑応答・意見交換)

委員：前回の審議会で、前期計画を総括したものはあるかと質問させていただいた。今回作られるものと思っていました。

：24年度の目標と実績を併記して、まずはそれを○×△に評価する必要があると思います。それで目標と実績のギャップがみえてくるので、そのギャップがなぜ発生したのかが課題・問題点になると思います。

：その評価がこの資料の中に総合レビューとして現れて、課題・問題点とそこに環境条件も関わって見直しの説明があるならわかるのですが、数字の見直しだけなので、計画のブラッシュアップにつながる問題点・課題がみえてきません。総合レビューを付け加えて欲しいという意見です。

事務局：総合計画策定部会や各課において、指標の目標値と実績値をふまえた施策の振り返り・評価は行ってきました。そこで出てきた課題については後期基本計画の分野別計画の左側の頁(現状と課題の部分)に反映しています。

：評価についてはこの一覧表(資料1)に示すとおり、達成状況の低いものは黄色(×に相当)、高いものは白(○に相当)で評価しています。△に相当する評価は行っておりません。

：総合レビューは分野間での隔たりを総括する資料になるかと思いますが、そうした評価は行っておりません。また、策定部会で行った各分野の評価に関する資料はかなりのボリュームになるため資料1には落とし込んでいません。

：資料1の各指標は様々な施策が複合的に関係する指標となっていますので、端的にレビューすることは難しいかと考えています。

会長：補足するとしたら、第1点は、後期基本計画(案)の各項目のところに課題が書か

れていますが、5年間の成果をふまえて文章化したということです。

： 第2点は、それをふまえて資料1にあるように項目毎の目標値の見直しをしたこと、これが事務局の回答ということです。

委員： 一般的レビューとは違うものですから、もう一度読み直します。

： 人口の社会増の数値目標について、日本国籍と外国籍の合算数値になっていますが、それを2段書きに分けた方がわかりやすいのではと思います。

： 外国人の数が増えると社会増になりますが、目標としては、定住人口の確保は日本人口の増加と思いましたので、日本国籍だけだとなんのかかわかるように2段書きにした方がよいかと思いました。

事務局： 人口の社会増に関しては、前期基本計画の中で設定した指標となるため、基本的にはこのような表記でと考えています。

： 定住人口の確保を当然目指しているわけですが、日本国籍の方も外国籍の方も含めて定住人口として捉えていますので、現状での表記のままでいきたいと考えています。

会長： 定住人口が大事だから日本人の内訳を書くべきではというご指摘でした。そのときに外国人という方をどのように想定するかについては、恐らくいろいろあると思います。

： 在留資格は実にさまざまなものがあります。いわゆる技能実習生とかは3～5年で帰ることが原則ですが、永住者が日本人よりも武豊町から転出しやすいという訳ではないという点は補足させていただきたいと思います。

委員： わからないので資料1の見方を教えて下さい。1-2のコミュニティバスの利用者数は24年度の実績が97,000人に対して、目標が73,000人となっているのはなぜですか。8-3の町ホームページの年間アクセス数も、目標値が実績値の半分程度になっています。

事務局： 資料1は前期基本計画の達成状況ということになっていますので、24年度の実績97,000人に対して、当初の中間目標が72,000人だったということを示しています。そこで後期基本計画では「目標値修正予定↑(上方修正)」としています。

： 後期基本計画(案)の中には、上方修正した数値が入れてあります。資料がわかりにくくて申しわけありません。

会長： 資料1の方に見直した数値も記載いただくとわかりやすいと思います。できれば資料作成お願いいたします。

(2)第6次武豊町総合計画後期基本計画(案)について ……資料2

(3)第6次武豊町総合計画後期基本計画(案)への修正提案、ご意見・ご質問について

……資料3

会長： 資料2と資料3をまとめて説明をお願いいたします。

(資料説明)

・ 事務局より、資料2については、後期基本計画での主な変更点(朱書き箇所、人口推計結果、成果指標の見直し)を中心に説明した。また、資料3にて事前にいただいたご意

見・ご質問・ご提案への回答を説明した。

- ・なお、時間の都合で回答が間に合わなかったご意見等については、本日いただく意見と合わせて一覧表に整理して後日送付することをお伝えした。

(質疑応答・意見交換)

会長：ただいまの質問への回答に対する意見や、また資料2でまだ指摘できていないことでもかまいません。意見をいただきたいと思います。

：なお、事前の意見提出までの時間が必ずしも十分ではなかったので、書面で意見を出していただく期間をもう少し延長したいと考えています。

委員：3-1 学校教育(4)②いじめの未然防止に関して、「教員との良好な関係づくりを」とありますが、学校の中だけでのイメージにとらえられてしまう恐れがあると思います。しかし実際は非常に複雑な背景があるのがいじめです。

：先ほど、「こどもにかかわるすべての人」という言葉で説明がありました。その言葉をここに入れると意味が膨らんで、たくさんの人が子どもたちを支える表現になりよくなると思いました。もう一度検討してください。

会長：担当課での対応となるかと思いますが、一度ご検討ください。

委員：総合計画の位置づけを改めて確認したいです。資料2の1頁をみると「実現していくための施策方針を定めた計画」とか、「行政経営のビジョンとなるもの」と表現されています。

：総合計画では施策方針、ビジョンを示し、具体的な取組は個別計画に落とし込んでいくという理解でよいのか確認したいです。

：資料3の説明で、「総合計画なので具体的な取組やイメージは記載しない」といった説明がかなりありましたが、具体的な記述を求める意見はこれからも出てくると思います。

事務局：ご見解のとおりです。細かな施策については個別計画に載せて実行していくことになります。また、毎年、総合計画を具現化していくための実施計画も策定しています。総合計画は目指すべきビジョンとしてとらえていただきたい。

会長：資料2の1頁のところに、総合計画自体が基本構想、基本計画、実施計画の3層構成になっているとの記載があります。また、各分野別計画には関連計画として個別計画が上がっていますが、個別計画と総合計画の関係性についての記述はなかったかと思います。どこかで書いておくともよりわかりやすくなると思います。

事務局：現行計画の73頁に「⑧関連計画」について記載しています。後期計画でも掲載を継続予定です。

委員：24頁の「(2)子育てしやすい環境づくり」のところに、『安心してこどもを産み育てることができる町としてのイメージを浸透させていくことが必要』と書いています。一般町民からするとどのようなイメージなのかと思います。

：具体的な記載は難しいかも知れませんが、まちづくり会議で出てきているような案、こういった例があるのと言った記載くらいはできるのではないのでしょうか。

：イメージという言葉が使われているので、何を伝えたいのか、分野別計画のところでいいので何か表記できないかと思います。『こどもを産み育てることができる町としてのイメージ』が私の中では分野別計画とつながらなかったのご検討いただけないかと思いました。

事務局：59頁に重点施策方針2として「こどもの学び・育ちを応援するまちへ」を掲げさせていただいています。また、分野別計画の「2-1 出産・子育て」で施策方針(1)から(5)までを掲げています。

：イメージが湧きにくいのかも知れませんが、重点施策方針および分野別計画での施策方針を踏まえ、子育てしやすいまちづくりにつなげていきたいと考えておりますので、現状での記載で進めさせていただければと考えています。

委員：難しい注文だとは思っています。提案ですが、24頁のような項目のところに、分野別計画の何頁と関連しているということがわかるように、何頁参照というような注釈的なものをつけることは難しいのでしょうか。

事務局：24頁の「まちの課題」は、第2編基本構想の9つの「まちづくりの目標」と合致しており、それが9つの分野別計画とも合致しています。

：30頁「まちづくりの目標」のところで、(2)に「(分野2 こども)」と記載していますように、24頁の「まちの課題」のところで関連する分野を追記する方法を検討したいと思います。

委員：どこに関連しているのかが一目でわかると読みやすいかと思いました。

会長：24頁のところで「イメージを浸透」と書くとそのイメージは何ですかとなります。ここを「子育てしやすいまちとして理解いただく」とすれば「イメージ」という言葉を抜いても十分に意味は伝わると思います。

：30頁のところにも「住宅地としての良好なイメージを形成し、」とありますが、「イメージを形成」となるとそのイメージは何ですかとなりますので、計画書の中でイメージという言葉が良いのかどうか一度検討していただけたらと思います。

委員：皆さんの意見をうかがっていてわからなくなったのですが、この総合計画はそもそも誰が見るものになるのでしょうか。

事務局：武豊町に関係するすべての方になります。住民の方も町に関係する機関のすべての方が対象になります。

委員：我々が出した提案・意見は、専門的なものもあれば、一般住民の目線での提案もあります。これまでの回答をうかがっていると、すでに決まっていますので、と終わっている印象を受けましたので、そもそも一般住民が読んでわかりやすいのかということで質問させていただきました。

会長：計画ができたときに色々な方にどうお伝えするかというご指摘でもあるかと思っています。

委員：3頁の「町を取り巻く時代の流れは」のところですが、現計画と大きく変わっています。例えば、地方創生や新しい公共のための協働といったポジティブな記載が抜かれてしまった気がします。

： 国県レベルではこうした傾向があることはその通りですが、この町を取り巻く時代の流れはどうか、メタレベルの高いものだけが取り上げられている印象を受けます。日本全体の状況だけでなく、この町に即したことももう少し書いても良いのではないかと思います。

事務局： 3頁では人口減少、超高齢化社会について記載していますが、次頁からの(2)～(5)は日本が置かれている状況を武豊町に置き換えて項目を記載しています。

会長： 3～6頁はあくまで日本全体の大きな社会状況を書いています。武豊町のことについては、第2章でデータを加えて武豊町のことを詳しく書いているということだと思います。

委員： 5頁のところでDX(デジタルトランスフォーメーション)のことが出てきます。大きな課題、大きな時代の流れの一つだと思うのですが、24頁からの「まちの課題は？」のところで、DX、スマート、デジタル、データといった言葉がまったく出てきません。そこに触れられないのはなぜでしょうか。

事務局： 分野別計画の分野9のところではDXの推進について触れていますが、ご指摘いただいたように、「まちの課題は？」でも取り上げていくべきであると思いますので、入れる方向で検討させていただきます。

委員： データを活用するとか、データの収集について、触れられるということはありませんか。

会長： 58頁の重点施策方針1では、施策の方向の2つめに、限定的ですが「デジタル技術等を活用した」と書かれています。この記述で十分かどうかを確認いただければと思います。大事なご指摘ですので、ご検討いただくということでよろしいでしょうか。

委員： 総合計画が上位計画としてあってその下に個別計画がありますが、総合計画の見直しと個別計画の見直しにズレが生じていることと、社会の情勢の変化にも追いついていないことに問題があります。ズレのためにどうしても直せないところが生じたりしています。

： 総合計画の見直しに合わせて個別計画を見直す期間を改めるとか、そうしたことを含めて考えていかないと、いつまで経ってもこのような状況が続いていくと思うので、そのあたりを考慮して行政の方も動いていただきたい。

事務局： 総合計画の計画期間、個別計画の計画期間がラップしているような状況が続いています。すべてを合わせることは非常に難しいですが、合わせることで計画もあるかと思うので検討させていただきます。

委員： 3頁の「町を取り巻く時代の流れは？」のところですか。前期計画では、地方創生、協働を通じた新しい公共、社会基盤施設の老朽化に対する行政経営戦略などに触れています。これらは今の時代にも大変重要で、ここのところは武豊町、企画政策課がしっかり取り組んできたところではないかと思うので、むしろ残す方向で考えてもらってはどうか。危機感だけをあおるような記載になってしまう危惧があります。

：分野別計画のそれぞれには個別計画の記載がありますが、個別計画にはどのような計画があるのかがわかるような一覧のようなものが掲載されていれば、詳細は個別計画で決めて、総合計画ではベクトルを示すということがより理解できるのではないかと思います。

事務局：前期計画の16頁に記載のあった内容については、後期計画案の6頁のところで集約して記載させていただきましたが、前期計画での記載をもう少し残す形で文章を見直しさせていただきたい。

：個別計画の一覧表については、頁数の関係もありますので、一度検討させていただきます。

会長：行政計画は60～70あると言われています。一覧表にして出している市町村を私は見たことがないですが、一度検討してください。

：6頁の部分は、施設の老朽化や地方創生についても触れていますが、見出しが「(5)厳しい財政状況」となっていますので、見出しを改めるとか、あるいはもう一項目くらい増やすとか考えてもらってもいいかもしれません。

委員：分野別計画にある成果指標と施策方針の関係性ですが、下の施策方針は上の成果指標を保証するためのものであると理解しています。

：例えば、3-2 生涯学習のところの成果指標に、「中央公民館の利用者数」があります。先ほどの説明の中では当初目標の達成が厳しいという話がありましたが、目標達成のための取組内容が施策方針ときっちりつながっているのかどうか、施策方針で成果指標を保証するというストーリーになっているかということです。それに対して不足であれば、関連計画で補足するものがありますとか、そうした展開になるとわかりやすくなると思います。

：中央公民館であれば、関連計画として公共施設等管理推進事業で、どこかの機能と統合するとか、そうした計画があるということを書いていただくのとよいのではないのでしょうか。そうしたストーリーをつくっていただいて、一枚ものの資料をつくっていただくとうわかりやすいかなという意見です。

会長：成果指標と施策方針の関連性がきちんとついているのかというご指摘かと思います。

事務局：分野別計画では、それぞれの取組分野で成果指標を掲げて、その目標達成に導くための主な施策方針を掲げています。

：「中央公民館の利用者数」で言えば、施策方針(1)①の「生涯学習プログラムの実施に努めます」とか、(2)①の「施設を気軽に利用できる仕組みを周知します」とか、そういったところから、中央公民館だけではありませんが生涯学習関連施設の利用促進につなげていきたいというストーリーを描いたもののご理解いただければと思います。

会長：施策の方針が先にあって、それを指標としてはどうとらえようかということで成果指標を出したのではないのでしょうか。

：施策の基本方針(施策が目指す姿)があって、それを受けて個別の施策方針があります。その進捗状況を把握するための指標として、これらの指標が出てきたと

いうことではないでしょうか。

- ：ただし逆の考え方もあって、施策の基本方針すべてを把握できる指標はないので、施策方針の一部分を補足できる指標で代替しているというロジックの方がよいのかなとも思います。

事務局：ご意見を受けて、表記の仕方について検討したいと思います。

会長：成果指標と施策方針の順を変えてくださいということではありません。

委員：この順でいくのであれば、成果指標のところ、例えば中央公民館利用者数の右に欄を設けて、施策方針(1)へとか、(2)へとか、複合的に施策があるのであればつながるようにしていただければわかると思います。

会長：他の市町でも、しばしばこの指標だけでいいのかという議論になります。その部分はどうしても限界があります。

- ：ここで大事なことは、まずは施策の基本方針(施策が目指す姿)があって、それを実現するためにどのような施策の方針を取っているのか、そのロジックはとっても大事だと思っています。
- ：指標については、実際に数値が取れないと意味がないですし、10年に1回しか捕れないような指標でもだめですし、現実的に把握できる指標には限界がある中で設定していると思いますので、その中でロジックがみえるようになればいいと思います。
- ：それぞれの成果指標がどの施策方針と対応しているかについて、記載してはどうかというご指摘についてどうですか。

事務局：現状、指標と施策方針それぞれが1対1の関係ではなく、複数の施策が絡んでの指標が多いと思われます。表記するとなるとボリュームが増えて見にくくなるとか、複数に渡りすぎるということも考えられますので、現状のような形で取らせていただきたいです。

委員：指標に対する施策の保証と整合性が取れていればよいと思います。

委員：資料1の説明で、最終目標の隣に変更した数値を入れるとおっしゃったので、最終の形がわかる資料にまとめていただければと思います。

会長：それはお願いします。

- ：本日が22日です。追加のご意見・ご質問の〆切をいつにしましょうか。

事務局：事務局としては29日までをお願いしたい。次回第3回審議会資料はデザイン化したものとなる。発送は9月1日を予定している。ご意見・ご質問への回答一覧はその資料より前に送付させていただく。

会長：本日の資料3のご意見、本日議論いただいた内容、それに追加でいただいた意見、これらを合わせていただいて、そこに事務局としてはこう対応したいという回答もつけて資料を作成してください。それを次回の審議会の前に我々に送信していただくことにしたいと思います。

- ：次回の審議会は9月10日となります。そのあと計画(案)は、パブリックコメントに諮っていくことになります。
- ：次回の審議会では我々としての案にとりまとめたいと思いますので、ご協力を

お願いいたします。

以上 12:00 了